

# ごとう通信

第46号

平成16年10月1日

ようやくあの暑さを乗り切りましたね。今度は疲れて体調を崩しておられる方はいませんか？（暑さだけでなく）ホツとしたときというのは人間の身体が最も弱いときです。適度に休んで体調管理に気をつけましょう。

さて、僕の方はこの夏、原稿に追われる日々でした。もちろん、求められるということはありがたいことです。テーマも「訪問診療」「口腔ケア」「飲み込みの障害のリハビリテーション」「地域のネットワーク」と多岐に渡りました。おかげでいろいろなことが頭で整理されました。なかなか日々の実践だけでは振り返ることができません。しかし、このような原稿や研修会の講師など

をやることは自分自身の学びの場となります。本当にありがたいことです。

でも、学んだことは皆さんにお返しできるようにしないとイケませんね。

## 「口から食べる」シンポジウム

先日、幕張の国際会議場で大きな研究会があり、そのうちの一つの分科会として「生きること 食べること」というシンポジウムの司会をやりました。シンポジストは、高齢者とともに食べることの重要性を学び、現在の介護食の生みの親、老人福祉施設の園長、時田純先生、胃ろう（胃に穴をあけて栄養を導入する）であるからこそ口から食べることが重要と訴える医師の小川先生、訪問栄養指導を行う栄養士の会の代表、松月先生、「食と免疫」について研究されている上野川先生という顔ぶれでした。

それぞれの現や研究の立場が素晴らしい話を

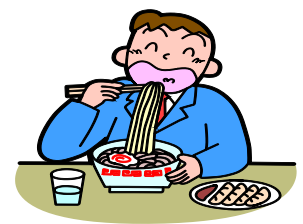
いただいたのは、「口から食べるとどう

ていいのか」ということです。それぞれの経験を語っていただくと、いろんな共通点が見えてきました。人間も動物なのですから口から食べることは生物学的、肉体的、そして精神的な影響を及ぼすのも当たり前ですね。いろいろ目からウロコのひと時でした。

ちなみに準備会は一年以上前からやっていたんですよ。結構裏方は大変なんです！

## 診療費

今回はタブーに挑戦しましょう！というほど大したことではありません



しか引 しら場